

卒業制作「どうぶつたちからの贈り物」ならびに「彩の間」の改修

造園緑化コース

1. はじめに

私は、将来公園管理の職に就きたいと考えている。公園管理の中でも植栽管理というものは観賞目的だけでなく公園の利用者のことを考え管理していくものだと考える。

今回は、学内にある造園空間の改修を行い、将来公園管理を行うときに、この卒業制作の経験を活かして、公園利用者が楽しんでくれるような空間をつくれるようになるため、このテーマを選んだ。

2. 現況

第8期生卒業制作である「どうぶつたちからの贈り物」南の園路は芝生広場から道路に繋がり、実習棟への階段が近いため、実習棟と本館を移動するときに使われることが多い場所である。第10期生卒業制作「彩の間」は、スゲ類がウッドデッキの上まで伸びている。常緑ヤマボウシなどの樹木類が重く、光が入り辛く全体的に暗い印象を受ける(写真-1)。

3. 改修の方針

人が多く利用する場所を改修し管理を行うことで、より人が入りやすい空間にする。

二つの卒業制作のコンセプトには“憩い”というキーワードが共通している。

“憩い”とは、からだや心を休めること、休憩などの意味があり造園空間や公園空間になくしてはならない要素だと感じる。

私は管理が十分ではなく隠れてしまった部分を“みせる”ことでこのウッドデッキ周辺を明るくすることと、先輩方から贈られた憩いの空間を改修し、これからも学生をはじめ多くの人々が休める場所になるような改修を行うことを方針とする。

4. 改修

(1) 樹木

全体的に高さを下げて透かし剪定を行い、形を自然風にして統一感を出した。

ハナモモ、ジューンベリーは弱っているため透かし剪定は行わず、枯れ枝を切り落とし、ウメノキゴケを落とした。ハナモモのうち一本は伐木した。

(2) 下草

管理は切り戻し程度にするが、園路やウッドデッキにはみ出しているスゲ類は鉢上げせず掘り取った。シュウメイギクは改修範囲内に移植した。

(3) ウッドデッキ

グラインダーで塗装の前処理としてヤスリ掛けを行い、防腐塗装は二度塗りした。

ウッドデッキの枕木階段は下の段の枕木が腐敗しているので新しく変えた。

(4) 園路

版築前の石敷きの改修。ウッドデッキは三つの園路につながっている。飛び石の打ち直しをしてすべての園路を整備し、人が通れるようにした。



写真-1 改修前



写真-2 改修後

5. 考察

今回の卒業制作で広範囲を一人で管理することの大変さと楽しさを知り、二年間学習した成果を数多く実践し、技術を向上することができた（写真-2）。

管理中、園路を通った学生や先生方に「道が通りやすくなった」「明るくなった」「こんなところに蹲があるなんて知らなかった」など直接言ってもらえることが多く、管理が十分ではなく隠れてしまった部分を“みせる”という方針により、このウッドデッキ周辺を明るくすることができたと実感した。